

## 平成29年度第1回青森市健康福祉審議会障がい者福祉専門分科会 会議概要

**開催日時** 平成29年5月25日（木）15：30～

**開催場所** 青森市役所2階 庁議室

**出席委員** 船木昭夫会長、高橋紀男委員、浅利義弘委員、畑井英成委員、桐原郁子委員、今柴利子委員、町田徳子委員、《計7名》

**欠席委員** なし

**事務局** 福祉部長 能代谷潤治、福祉部次長 荒内隆浩、障がい者支援課長 土岐志保、健康福祉課長 花田清志、障がい者支援課副参事 白戸高史、同課主幹 高木康人、同課主査 佐々木栄子、同課主査 佐藤進一  
《計8名》

- 会議次第**
- 1 開会
  - 2 福祉部長あいさつ
  - 3 事務局紹介
  - 4 議 事  
(1) 青森市障がい福祉計画第5期計画の策定について  
(2) アンケート調査について
  - 5 そ の 他
  - 6 閉 会

### 議事要旨

#### 青森市障がい福祉計画第5期計画の策定について

事務局から青森市障がい福祉計画第5期計画の策定について説明があった。

#### ○委員

これまで、相談支援の改善をしっかりと行ってほしいと言ってきた。今回、精神障がいに対応した地域包括システムの構築が加えられたことと、相談支援の中で発達障がい等に対する支援が取り上げられたことから、是非、発達障がい、特に子ども達の発達障がいについて積極的に取り組んでほしい。

#### ○委員

障がい児は特別支援学校に入ると思うが、そういうところにも専門家がいれば一番いいと思う。

○委員

本来は教員自身の専門性の向上が課題になるが、その他、心理的な面として、他県では、メンタル面やソーシャル面でのカウンセラーが県立高校に配置され、その学区、エリアでサポートする体制になっている。青森県の特に特別支援学校では、その体制になっていない。特別支援学校だけではなく、小中学校でも、サポートが必要な子ども達がいるので、ニーズに応じてサポートできるシステムを今後の計画の中で考えてほしい。

○委員

青森市内だけではなく、県内でも、スクールソーシャルワーカーの人数は少ない。教育の場では、いろいろな生活課題を抱える子ども達や障がいのある子ども達がいると思うが、専門的なサポートをしていく上で、スクールソーシャルワーカーが必要だと思っている。

小学校、中学校、高等学校において、生活課題、こども達の貧困、障がいに関するサポートのほか、子ども達だけではなく親もいろいろな課題を抱えているので、スクールソーシャルワーカーが力になればいいと思っている。

○委員

職場定着率について、新規で就労した方が半年経つ前に離職することが課題となっている。どのような支援が必要かを含めて考えていきたい。

○会長

国の基本指針としては、精神障がいに対応した地域包括ケアシステムの構築、就労支援、障がい児や発達障がいについても課題があるので、より発展的に、また新規のものを効果的に計画に含められるよう検討してほしい。

**アンケート調査について**

事務局からアンケート調査について説明があった。

○委員

アンケートに、障がいのある方の生活という部分で、金銭面についての質問が含まれていない。障害年金や工賃をいくら貰っているかなど、障がい者の生活に密着した情報を調査することで、どういう生活をして地域生活で苦勞しているのかが見えてくると思う。

○会長

今回のアンケートは、計画のためのアンケートとして、実態調査に視点を置くのか、福祉サービスに対する意識に関する調査に視点を置くのかを考える必要がある。

精神障がいに関して言えば、様々な生活実態を含めて、経済的問題や差別の問題を含めた調査もより細かくやっていく必要性はあると思う。今後、自立支援協議会での実態調査の実施や分科会での議題とすることを含めて検討してほしい。

#### ○委員

アンケートに答える方も、自分の生活に密着した内容には、より関心を持って意欲的に答えると思う。行政が知りたい内容のアンケートだと思うが、自分たちの生活実態を把握しようという意欲のあるアンケートには一生懸命答えることができると思う。

#### ○事務局

今回のアンケートは、サービスの提供体制の確保に向けたニーズ調査であり、生活実態の把握などの調査は、施策の方向性を定める障がい者総合プランを策定する際に行いたいと考えている。また、他にも様々な質問項目を考えたが、質問数が多くなったことから、40問程度とした。

#### ○委員

40問のアンケートに答えるのは大変ではないか、30問程度なら頑張って答えられると思う。介護保険のアンケートでは60問あるらしいが、障がい者の場合には、たくさんの項目に対して答えなければならないときに、優しく、分かりやすく、答えやすいよう、アンケートの作り方に工夫が必要である。点字のアンケートの用意、郵送で回答できない方への個別訪問や発達障がいのある方が答えやすい内容など、障がいの種別にあった合理的な配慮をしたアンケートの仕方も検討してほしい。

障がい児福祉計画を含めて策定することだが、障がい児については特別支援学校に郵送するのか。

#### ○事務局

アンケートの対象者は、障がい種別毎に抽出することとしている。視覚障がいのある方には、点字で対応できるようにする。その他、窓口や電話での回答にも対応する。

障がい児に関しては、18歳未満の方へのアンケート発送となる。また、国の基本指針では、障がい児支援について、保健、医療、教育、就労支援等関係機関と連携した支援と示されているので、教育委員会、子育て支援課などと情報共有を図りながら計画を策定していく中で、特別支援学校等とも話をしていきたい。

#### ○委員

青森市内の小学校には、特別支援学級があるので、そちらと連携してアンケートを考えてほしい。

#### ○会長

答えやすい方法で、答える意欲を持たせるよう、文字の大きさや、選択肢の並べ方などアンケートのデザインを工夫してほしい。

今回は、郵送での配布、回収が基本で、個別に回答してもらうこととなる。アンケートを学校に送ると先生方の責任も出てくるので、アンケートの意味合いが変わってしまうと思う。

○委員

今回のアンケートの目的が、障がいのある方のニーズや意見を幅広く把握し、第5期計画に反映するための基礎資料を作るためであり、質問が幅広くなるのは当然だと思う。

調査の対象者を無作為抽出し、学校ではなくて、個人に対して配布して、回収するのが今回の目的にあった配布方法である。また、特別支援関係の意見があれば、分科会の中で答えたい。

アンケート項目については、レイアウトの方法、回答の番号の意味合いを整理し、簡単に分かりやすく回答してもらえるような工夫が必要ではないか。様々な配慮を考えるとICTを活用したアンケートの方法もあると思う。

○委員

郵送以外の回答方法について相談できるということを、最初に記入してはどうか。

○委員

障がい者の権利擁護についての質問を、一番最初にしてほしいと思う。これを最初にして、障がい者の興味をひいて、答えてもらえるようなアンケートにしてほしい。

○会長

事業所用のアンケートの医療的ケアに関する項目で、医療的ケアを受け入れる意識があるか、受け入れるに当たっての条件として、どのような条件が必要かというような意見を聞けるよう、項目を検討してほしい。

○委員

アンケートについて、多様な方が対象となるので、合理的配慮をキーワードとして、様々なアンケート手法や対応が望まれると思う。

○事務局

本日、委員の皆様からいただいた意見を踏まえ、アンケートをより回答しやすいレイアウトに修正する。